昭和大学江東豊洲病院だより

2017年2月号　　第３４号

◆巻頭言　腎臓内科　本田 浩一

2016年のノーベル生理学・医学賞は大隅良典先生の「オートファジーのメカニズムの発見」でした。オートファジーとは細胞が自ら合成したタンパク質などの細胞成分を自食して分解し、アミノ酸を得る機能です。オートファジーの異常は老化や癌の発症と密接に関係しますが、最近、慢性腎臓病とも関係することが明らかにされています。

慢性腎臓病は腎臓の働きが持続的に低下した状態であり、糖尿病や高血圧の合症頻度が高い疾患です。慢性腎臓病が進行すると腎不全に至り、最終的には生命を維持するために人工透析か腎移植が必要となります。また、慢性腎臓病患者では、高齢者に特徴的な疾患、動脈硬化や心肥大、脳卒中などの心臓や血管疾患、骨粗鬆症や認知症などの発生率が増加します。慢性腎臓病は老化を加速させるスイッチの如く、腎臓から全身に老化現象を波及させます。

我が国の透析患者数は既に30万人を超え、さらに毎年増加傾向にあります。医療費を見ると、透析の年間経費は1.5-1.6兆円、合併症の治療費用も含めると、実に全医療費の20%が慢性腎臓病のために消費されています。慢性腎臓病の予防や早期診断は、腎疾患や合併症の予防・進行抑制につながり、結果的に国が負担する医療費を削減することが可能となります。

日本人は腎機能が潜在的に低下した方が多く、国民の8人に1人が慢性腎臓病に罹患していると言われています。先生方が診療される患者さんの多くが慢性腎臓病に罹患していると考えられます。一度、老化現象に関係する“腎臓”をご評価ください。

昭和大学江東豊洲病院

第３４号のトピックス

- 巻頭言　内科系診療センター　腎臓内科　本田准教授
- アレルギー鼻炎について　耳鼻咽喉科　許准教授
- eICU視察について
- 手指衛生チェック

◆アレルギー性鼻炎について　耳鼻咽喉科　許 芳行

春の陽気が待ち遠しい今日この頃ではありますが、暖かくなるにつれてスギ花粉症の時期も近づいてきます。今年の関東地方におけるスギ花粉の飛散開始は2月中旬と予想されています。花粉飛散量に関しては、西日本で大量飛散が予想されていますが、関東地方では昨年に比べてやや少なくなる見込みです。

花粉症治療の第一歩は抗原の除去・回避です。マスク、眼鏡・ゴーグルの着用がよく知られた防御策ですが、近年は鼻洗浄や空気清浄機を利用される方も増えてきました。ただし、抗原の除去・回避だけで花粉症症状を緩和させることは容易ではありません。2014年に日本国内でも舌下免疫療法が導入されましたが、治療が長期に及ぶこともあり、薬による治療が広く行われていることに変わりはありません。第二世代抗ヒスタミン薬、抗ロイコトリエン薬、鼻噴霧用ステロイド、抗アレルギー点眼薬がよく使われますが、特に花粉症患者の約9割に処方されている第二世代抗ヒスタミン薬は種類も多く、効果、眠気などの副作用、用法・用量、剤形なども薬によって異なります。医師にご自身が求めるニーズをしっかり伝えて、最も合った薬を処方してもらうことが重要です。市販されている点鼻用血管収縮薬や鼻噴霧用以外のステロイドの使用は、副作用を考えて極力避けるようにしましょう。

当院では難治性鼻炎の方に対してレーザー治療や手術治療（鼻中隔矯正術・下鼻甲介手術・後鼻神経切断術）を積極的に行っています。レーザー治療のみであれば日帰りで行うことができますが、手術治療を行う場合は入院が必要になります。手術適応はそれぞれ異なりますので、薬の効果が乏しく鼻症状でお困りの方は、ぜひ耳鼻咽喉科外来でご相談いただければ幸いです。

◆eICU視察について　看護師　武田 かおり

2016年11月29日から12月２日、米国でのeICUトレーニングに参加しました。

eICUとは、コントロールセンターと複数の集中治療室をプライベートネットワークで接続し、それぞれのICU患者の状態、データをコントロールセンターの医師や看護師がモニタリングする遠隔医療プログラムのことです。米国で2000年より展開され、日本では初めて導入し実証研究を開始します。

トレーニングでは、eICUや将来構想の紹介、実際に運営しているスタッフより成功するための秘訣などのディスカッション、また、コントロールセンターにて、実際の運用現場の体験などを行いました。

現場では、患者の状態や必要なケアの相談、データを基にした患者状態の評価など、効率的に質を高められる管理が行われていると実感しました。

課題としては、日本の制度や文化にあった運用の検討などがあります。患者にとっての効果を期待し、今後は実際の運用に向け取り組んで行きたいと思います。

二列目左から７人目　武田看護師

東京2020オリンピック・パラリンピックで、江東区内では九つの会場が使用される予定です。そのうち新しく新設される有明アリーナ会場は当院とは、東雲運河を挟んで新設されます。

（建設予定地）

◆　手指衛生チェック　感染管理室　高久 美穂

感染リンクナース・ICT・リンクドクター会では、2016年11月～2017年1月にかけて、全職員を対象とした「手指衛生チェック」を実施しました。蛍光塗料を使用して、手指消毒剤の塗り忘れや手洗いで汚れが落ちにくい箇所を確認することで、技術の習得や知識の向上を図っています。参加者からは「塗り忘れやすい箇所に気付くことができた」「意識して行うことが大切だと分かった」などの声が聞かれました。インフルエンザや感染性胃腸炎などが流行している時期でもありますので、正しいで手指衛生で一層の感染対策を行っていきたいと思います。

編集後記　　中村 明央

寒い２月です。「1年中の歌」で「つもる雪　二月♪」と歌われ、 寒さのために更に着物を重ねて着るので「如月」は「衣更着」とも言われます。しかし、暦の上では２月３日節分で豆をまき、４日立春にて春を迎えます。蕗の薹は立春の野菜です。冬眠から目覚めた熊は初めに蕗の薹を食べると言われています。旬のものを食べて季節を感じながら健康に生活しましょう。

昭和大学
SHOWA UNIVERSITY

昭和大学江東豊洲病院　http://www.showa-u.ac.jp/SHKT/
〒135-8577 東京都江東区豊洲5－1－38
TEL03－6204－6000（代表）
発行責任者：新井一成　編集責任者：長谷川真

Showa University KotoToyosu Hospital